

今日も一日、  
がんばりました。

# あなただけの おみとり



製作・監督・撮影・編集 村上浩康 『東京干潟』『たまねこ、たまびと』

タイトル&イラスト 岩渕俊彦(紙町銅版画工房)

整音 河村大(スタジオ・アー) 挿入歌 私の青空(唄 榎本健一) 宣伝デザイン 中野香 配給・宣伝 リリガード

ドキュメンタリー 2024 日本 95分 DCP © EICHA no MURA

<https://omitori.com/>

父は静かに旅立ち、母は晴れやかに別れを告げた。映画監督の息子がみつめた、父と母、最後の日々の記録。







家での最期を希望した父と、看取りを決意した母。  
息子のカメラが映し出す、戸惑いと焦燥、驚きと喜び、感謝と労い……。  
生と死に向き合う日々をありのままにみつめたドキュメンタリー。

「うちに帰りたい」。末期癌で入院を繰り返していた父の言葉で、母は家での看取りを決意した。介護ベッドを置き、ヘルパーさんや訪問看護師さんが出入りする自宅で始まった父と母の新しい生活。ベッドから動けない父は何かと世話を焼く母に「ありがとう」と口にするようになり、母はできる限り父の近くで時間を過ごすようになった。少しずつ食事が摂れなくなり、痩せ、目を瞑る時間が増えていく父。持病の悪化で自身の健康にも不安を抱えることになった母。ヘルパーさんたちは毎日父のもとを訪れ、丁寧にケアを行い、時に母の相談相手にもなってくれている。閉じていく命の前で広がっていく人と人のつながり。生と死のあわいに訪れる、夢のようなひととき。



40日余りにわたる両親の最後の日々をみつめたのは、『東京干潟』(2019)、『たまねこ、たまびと』(2022)などで自然と人間との結びつきを描き続けてきた映画監督の村上浩康。介護生活を続ける両親と積極的に関わりたいとの思いから回し始めたカメラには、「老老介護」「オレオレ詐欺」といった高齢者を取り巻く社会問題や、花や虫などの様々な命が映り込む。高齢化が進み続ける日本で介護や看取りは他人事ではなく、「看取り難民」という言葉も生まれている。いつ何が起こり、いつ終わるのかもわからない日常をどう生きるか。不思議な爽快感にあふれた、ある看取りの記録。



## あなたのおみとり

製作・監督・撮影・編集 村上浩康 タイトル&イラスト: 岩瀬俊彦(紙町銅版画工房) 整音: 河村大(スタジオ・アーム)

挿入歌:「私の青空」(唄: 榎本健一) 宣伝デザイン: 中野香 配給・宣伝: リガード ドキュメンタリー | 2024 | 日本 | 95分 | DCP © EIGA no MURA <https://omituri.com/>

10.19(土)より労いのロードショー

【全国共通特別鑑賞券】1,500円(税込)当館受付にて絶賛発売中!

一般1,800円/会員1,500円/大専・シニア1,200円/高校生以下800円

横浜

観たい映画はこの街で

R16 長者町5丁目交差点沿

シネマリン

045-341-3180  
www.cinemarine.co.jp